

■ 新年度がスタートした。本誌は今年、創刊32年を迎えるが、久ぶりに誌面記事の刷新を行う。第1弾は連載：ステアリング・コラム (steering column) 「BIBIMBA天野の”クルマの楽しみ方流儀“」が本号から始まった。担当は、子供の頃からクルマ好きで、レーシングドライバーとして活躍していた、FM局エアG(ワークス)の天野克彦氏。北海道のモータースポーツの思い出(歴史)やクルマ談義、そして郷土、北海道への提言などを、その風貌(?)に違わず自由奔放な、大胆なキャラクターでコラムを披露してくれるはずだ。

■ 第2弾は次号「新緑号」からの予定で、「佳世の?人間行脚(シリーズ)/会いたい人を訪ねて、ドライブ旅」(仮題)。執筆は当社が発行したベストセラー「粋に翹う北のそば屋」の著者、藤原(旧姓山口)佳世さん。「来年、北海道は開道150年を迎えます。本シリーズはさらにその先、『開道200年』を見据え、夢や志に挑む道内の創業者、経営者また、仕掛け人等との出会いのドライブ旅を紹介していきたい」と藤原佳世さんは取材、執筆に胸を膨らませる。連載スタートが大いに楽しみである。

■ また、「クルマ社会と北海道を元気に」をスローガンに、今後もユニークなキャラクターや経験、人生観をもった達人(?)、麗人等に登場してもらう予定である。人と(活字)文化が賑やかになれば、北海道経済も活性化すると確信している。

■ 4月、入社式で様々な企業のトップが新入社員に思いやアドバイスを語った「訓示」が報道されたが、日経ビジネスの「有訓無訓」で以前紹介されていた内容が意義深く印象的だ。オービック会長の野田順弘さんの言葉である。「私がこれまで経営で重視してきたのは、人材の育成と活性化です。人が成長すれば会社もやがて成長し、利益もついてくることを、身をもって体験してきました」

「社員の提案力や人柄、問題解決能力が重要で、こうした人材は時間をかけてじっくり育てていくしかないんですね」

「組織全体がフラットで、オープンで、言いたいことが言える環境づくりにも力を注いでいます。風通しの悪い組織では、良い人材は育ちませんから」

「人づくりは『信汗不乱』が必要。一生懸命流した汗を信じれば心は乱れず、やがて道も開けるという意味です。汗をかかないで楽に成長することはあり得ません」

また、日本マイクロソフト会長の樋口泰行さんは、同誌「有訓無訓」で語っている。

「人を説得するにはパワーが必要。社長が暗い顔をしているようでは、社員のモチベーションは高められない。元気を演じられるのもリーダーの資質だと思います」

両者とも、リーダーの条件、資質と成長する企業の文化、風土のあり方を見事に語っている。

(TS)

■ 今年は例年と比較し、雪解けが早いようだ。暖冬少雪の冬だったそうで、積雪量が少ないのも影響しているのだろう。

ただ、幹線道路が乾燥状態にも拘わらず、自動車交通事故が多いのが大変気になる。事故死者数こそ前年を下回っているが、札幌近郊で渋滞を巻き起こすような交通事故の報道を最近よく目にする。

春になり開放的になるのは喜ばしいが、クルマの運転は慎重に願いたいものだ。

北海道はこれから初夏の行楽シーズンが始まる。楽しい行楽が交通事故で悲しい思い出に変わらぬよう、心してハンドルを握りたいものである。

(Y・K)

■ 北海道はこれからの5月、6月、7月が、冬から解放された開放感、ぼかぼか陽気、緑と花が生き生きと1年ぶりの挨拶をしているかのよう、そして人の装いも華やか、さわやかな季節となる。

■ 〈お知らせ〉

この季節到来を祝って、当社発行の「花と紅葉の見どころドライブ」(山谷正著、2003年刊)を読者10名様(先着順)にプレゼントします。当書は「ドライブ王国・北海道。大いなる自然は疲れた心を癒し、命を洗濯してくれます。詳しい地図と、花・紅葉の見ごろ、各種イベント情報、問合せ先などの詳細情報を網羅した、景勝地ガイド」。

希望の方は、氏名、年齢、〒住所、電話番号、職業を記入の上、はがき、又はFAX(011-642-8315)でお申し込み下さい(道外の方も歓迎)。発表は発送をもって替えさせていただきます。